

第三は、調査結果が出るまで何もしないのではなく、現実に汚水を流している工場の規制の強化など、今まで手をぬいて来たところを、できるところから改善していくことです。

第四に、多くの市民が「霞ヶ浦の危機」を知るとともに、同時により多くの市民に広げていく。そして、大きな市民運動として、霞ヶ浦を守る運動、調査と浄化対策を要求する運動を進展させていくことが大切です。

ゴミを棄てないより訴えると同時に、町のいたる所にゴミ箱を設置させる運動をすることが必要ではないでしょうか。

霞ヶ浦汚染の問題は、こうすればいいというより、こうしなければすぐに、水は飲めなくなる、田畑に水を引けなくなるといふ問題です。霞ヶ浦の流域に住む私たちとは切離せない問題です。

私は以上のように考えますが、みなさんは、どう思いますか、なぜこんなに汚れたのか、お宅でも考えてみてはどうでしょうか。

(茨城大学農学部四年)

成長率の減速を！！

このままでは60年には汚染3位

報告は、環境破壊要因の飛躍的増大、高度化する国民の環境に対する欲求、環境保全と経済成長の三つの観点から環境政策の長期的課題を説明している。

環境破壊の飛躍的増大については、汚染物質の排出量を、大気については硫黄分、水質では生物化学的酸素要求量(BOD)で試算、実質経済成長率が平均八・四%のまま続くと、六十年には、硫黄分が今の三・六倍、BODは三・三倍、またゴミも二倍に増えたとする。

地域ごとの予測では、五十五年のブロック別工業出荷額予測をもとに算出したが、とくに既開発地区の周辺である関東内陸や、阪神周辺、未開発の北海道、東北が目立ってひどくなる。県別に見ると(県内の最もひどい汚染地域の比較)、例えば硫黄分で、四十四年には鹿児島北海道なみの低汚染県が七県もあったのが、五十五年にはゼロになる一方、いまの東京なみが二県から十一県に